

第16回 CPD 協議会 ECE プログラム委員会幹事会
議事録

1. 平成 25 年 2 月 1 日（金）16:00-18:30

2. 日本工学会会議室

3. 出席者：

川島一彦、小松生明、高草木明、持田侑宏、長井寿、但田潔、秦信宏

4. 配付資料

資料 16.1 第 15 回 ECE プログラム委員会幹事会議事録（案）

資料 16.2 ECE プログラムの開発と運用－国際競争力向上に向けて－（仮題）（第 2 次案）

5. 議事

1) 前回議事録（案）確認

資料 16.1 を用いて説明された後、誤字を訂正した上で、議事録として承認された。

2) ECE プログラムの開発と運用－国際競争力向上に向けて－（仮題）

資料 16.2 に関して、以下の意見が出された。

（1）タイトルは、「ECE プログラムの開発と運用－国際競争力向上に向けて－」とする。国際競争力の強化をサブタイトルとする方がよいとの判断である。

（2）”1 章 ECE プログラムの目的と要件”を（1）ECE プログラムの目的、（2）ECE プログラムの到達目標、（3）ECE プログラムの要件の 3 つに切り分ける。

（3）表や図にはすべてナンバリングを付け、本文中に引用するようにする。

（4）「2. ECE プログラムが求められる背景」の 6) 人材の育成に関する企業の姿勢の変化に示される下記の項目について、1 章の中に新たな項目を設けて位置づける必要がないかを議論した。

a) 中途採用の増加、中途採用の多様化、海外採用を前提とした人材育成策

b) 多様性への要求

c) キャリアパスの明示と認知

d) エンジニアリングキャリアデザインによる人材育成

e) 雇用延長と継続教育の視点

これらについては、欧米型のキャリアパスから見れば当然なことで、日本もようやくこうしたことに目を向けざるを得なくなっており、その上で人材教育では重要であるとの意見が出された。このため、「1 章 ECE の目的と要件」の中に示す 4 項目は変えないが、第 3 次案では、対象技術者の幅を従来のように”日本人の新卒者”を前提にした記述から、上記を受けて、もっと広げて記述して行くこととする。

(5) 「3. ECEプログラムの開発と運用」において、「ECEコーディネータ」と「推進委員会委員長」の名称の区別に関して議論し、これらを共存させることとした。これは、実際にナノエレ、物質・材料基礎の2つのECEプログラムにおいて、両者の役割が共存しているためである。ただし、「ECEコーディネータ」の名称に関しては、オーガナイザー等、幅を持たせた表現として良い。

(6) ナノエレECEにおいても認定証を示し、個人の特定は避けた上で、プログラムの内容をよく理解できる大きめの写真を掲載する。また、最終審査会と推進委員会との役割が重要であるため、今後、ECEプログラムを開発しようとする学会、機関の参考になるように記述を増やす。受講者の声も積極的に載せていく。

(7) 上記の意見を中心に、内容の充実を図り、エディティングをした上で、メール連絡も活用し、第3次案をできるだけ早く作成する。

6. その他

今回は平成25年3月11日(月) 16:00-19:00とする。